

## ■矢口新の教育思想と実践の研究：活動報告－水海道④ 水海道小フィルムライブラリーの内容調査と保存活動

### 1) 記録映画保存センター、村山氏が調査に同行 2010年3月

2010年3月24日、矢口教育学研究会は3回目の水海道小学校資料調査を実施。記録映画や教材映画の保存を行っている記録映画保存センターの村山氏に情報を伝えたところ興味を示され、村山氏以下3名の方が調査に同行された。

到着早速、フィルムライブラリーの状態を見た村山氏は、保存状態がよくないと判断、とりあえずタイトルをチェックして、この中に保存すべき貴重な作品がないか、調べることに。矢口研のメンバーも加わって約3時間かけ500本のフィルムのタイトルを記録。

具体的な保存対策については、教頭先生から、所有権は教育委員会にあるのでどうにもできず困っているとの事情を聞く。そこで、矢口研から、これまでの経緯の説明とともに、常総市教育委員会に対して提案するということにした。

右下の写真は、劣化する前にテレシネしておかなければならないと、いくつか持ち帰った貴重なフィルムの状態をチェックする村山氏。(記録映画保存センターの事務所で)



### 2) フィルムのリストづくり 2010年4～5月

矢口研では、カードに書き取った映画のタイトルから理科、社会科といった分野を類推してリスト作りを開始。だいたいできたところで記録映画保存センターに送った。

同センターでは、製作会社やネガがすでにないもの等、作品の内容や重要度の調査を実施。のち、その調査により、教育史的にも大変重要な社会科教材映画体系39本のうち32本がこの中にあったことがわかった。

\*社会科教材映画体系は、昭和24年(1949)に海後宗臣、梅根悟、矢口新ら教育学者が企画し、教材映画製作協同組合に参加するプロダクションによって、昭和29年までに39本が製作された。この事業に対して昭和26年にブルーリボン特別賞が贈られている。

### 3) 常総市教育委員会への状況説明と提案 2010年7月, 8月

矢口教育研究会から常総市教育委員会に対して、水海道小学校の資料調査の経緯とともに、ライブラリーのフィルムの状態を報告し、16ミリ映画教材の保存と活用について、つぎの資料①②③のように提案を行った。

2010年7月25日

## 水海道小学校フィルムライブラリーの 16ミリ映画教材の保存と活用について

矢口教育学研究会では、2008年度より、水海道小学校が昭和20年代から40年代にかけて、教育学者矢口新の指導のもとで学校ぐるみで実施したカリキュラム開発を中心とする教育実践の足跡を調査しています。その調査の一環として本年2010年3月に、保存されている視聴覚教材のうち16ミリ映画フィルムについて緊急に概要調査を行いました。

16ミリ映画フィルム約500本の多くは、教材映画という教育史料としても、映画史の史料としても貴重なもので、郷土水海道の歴史史料となる作品や、全国的に見てこれまで発見されていない貴重な作品も発見されました。また水海道小学校のフィルムライブラリーを中心にした教育活動は、権威ある読売教育賞を受けた実践であるため、フィルムライブラリー全体としても保存価値が高いものと思われれます。

しかしこれらの16ミリ映画フィルムには、経年変化による劣化や、フィルム自体が発するガスにより酸化する現象がかなり進んでいます。このまま放置すると、貴重な資料が滅失する可能性があります。

そこで、水海道小学校が保存する16ミリ映画教材の保存の仕方と活用について、別紙のように提案いたします。ご検討いただき実施の方向になりましたら、またお手伝いさせていただきます。

尚、今回の水海道小学校フィルムライブラリーの調査に協力していただいた記録映画保存センターから、次ページのような依頼がありました。併せてご検討お願いいたします。

### 緊急のお願い

水海道小学校フィルムライブラリーの16ミリフィルムのうち、「産業と電力」「手工業」「生活と水」の3本は、いまのところ全国的に見て水海道にしか存在しないと思われれます。早急にフィルムの劣化状態を検査するため、上記3本のフィルムを貸し出していただけたく、お願いいたします。

一般社団法人 記録映画保存センター  
事務局 長 村山 英世

<別紙1>

### 水海道小学校フィルムライブラリーの 16ミリ映画教材の保存と活用についてのご提案

#### 1. 教材映画の全容調査

- ① 調査内容 : 題名、規格（白黒、カラー、時間）、製作年、製作会社、製作スタッフ、内容の概要、受賞歴、およびフィルムの劣化・破損の状態など

★題名については本年3月に調査済みです。

学校が作成していた台帳が見つかったので、照合すれば詳細が明らかになるはずです。

- ★国立フィルムセンター資料、視聴覚教育協会の作品検索データ、映像文化製作者連盟の作品検索データを参照すれば、完全なデータができます。
- ★フィルムの保存状態については、映画保存センター等の専門家にチェックを依頼します。

## ②調査期間中のフィルムの保存措置

調査期間中は、フィルムの劣化を遅らせるため、空調設備のある施設へ一時的に移動するのが望ましいです。空調設備のある、図書館、博物館、資料館などです。

資料の全容が明らかになった時点で、恒久的に保存が必要な重要な作品については、一括または分散保存する措置を行います。

## 2. 16ミリ教材映画の保存のしかた

製作会社、あるいは国立フィルムセンターが保存するネガ原板が可燃性で、16ミリプリントの数が全国的にみて他に存在しないか、極少ない作品は、「記録映画保存センター」を通して国立フィルムセンターに寄託する。その際、映像をデジタルメディアに複製し常総市で保存するとよいと思います。

- ★16ミリフィルムの劣化は回避できないので、国立フィルムセンターでは研究用にデジタル化しています。（メモリー、ハードディスク、DVD）  
現在は著作権の問題で、市のレベルではデジタル化不可能な作品も多いので、著作権処理については、作品ごとに調査する必要があります。
- ★映像資料の価値は、映像の内容を実際に見なくては判断できませんが、膨大な作品をすべて見ることは不可能です。そこで内容について知ることのできる資料による検討とともに、教材映画の内容を知る専門家や研究者のアドバイスを受けるとよいと思います。
- ★保存方法の決定は、活用方法との関わりを考慮する必要があります。そのため活用の企画について先行して検討する必要があると思います。

県内には他にも学校フィルムライブラリー、社会教育ライブラリーが複数存在し、同じように多くの16ミリフィルムが残っていると予想されます。（すでに廃棄されているかもしれませんが）その状況も考慮しながら、常総市としての保存と活用の方針を検討し、決定されるとよいと思います。

## 3. 活用の具体的計画とその進め方

具体的な計画は、上記1、2の調査と検討で決まってきますが、以下のようないくつかの方法が考えられます。

- 作品を上映する映画会、講演会、研究会を開催する。

水海道フィルムライブラリーの史料価値をPRするとともに、地域社会のあり方を考えるきっかけになります。たとえば昭和20年代の水海道小学校が舞台となっている映画「はえのいない町」「私たちの学校」の上映により、当時の水海道地域の人々の生活や、学校の様子、教育の様子を振り返り、地域社会の在り方、教育の在り方を考えるというテーマで集会を開いてはどうでしょうか。

（映画をきっかけに、当時の生徒たち、先生たちの話を聞いたりする機会にするのもよいのではないのでしょうか。）

- 教材映画を現在の授業に活用する教員による研究会を行う。

農業、工業、商業等の産業の発達、労働や生活の変化等を現在と比較し探究する学習ができます。

- 視聴覚教育の歴史、教材史、教育史などの研究者に情報提供する。

- 上記の活動を実施するにあたっては、卒業生、PTAに働きかけること、そしてマスコミに働きかけ報道してもらい市民の関心を高めるのがよいと思います。

また、16ミリフィルムの活用を考える委員会またはサークルを組織し、水海道小学校の

16ミリ映画を見る会を継続的に開催するように進めるとよいと思います。

全国に先駆け、16ミリ映画教材活用の“水海道モデル”と言うべきものを、ぜひ作っていただきたいと思います。

以上

#### 4) 所蔵フィルムの寄贈

常総市教育委員会が、水海道小学校と石毛地方教育委員会のフィルムライブラリーの所蔵フィルムを記録映画保存センターに寄贈することを決定。11月、同センターが16ミリプリント1000本を引き取った。引き取ったフィルムは同センターが、順次整理していく予定。



##### ①石下地方教育委員会フィルムライブラリーの調査

2010年10月

記録保存センタースタッフと榊（矢口研）による、茨城県常総市石毛の古い視聴覚教材の16ミリプリントの調査。かつて石下小学校に置かれていたもので、約500本のフィルムのタイトルをリストアップした。（写真、上、中）



##### ②記録映画保存センター、フィルムの引き取り

2010年11月

水海道小学校、および石毛地方教育委員会のフィルムライブラリーの16ミリプリント計1000本が、記録映画保存センターに引き取られた。



(2010/11 榊 正昭)